２０２２年度
学校関係者評価報告書

学校法人　国際総合学園
国際外語・観光・エアライン専門学校

＜開催概要＞

【開催日時】　２０２２年　１１月３０日（水）１６：００～１６：４５
【開催場所】　新潟市民プラザ　会議室
【出 席 者】　（学校関係者評価委員）新潟日米協会　専務理事　関根　伸春
（学校関係者評価委員）一般財団法人　魚沼市観光協会　　山田　智之
（学校職員）国際外語・観光・エアライン専門学校　校　長　　栗林　直子
（学校職員）国際外語・観光・エアライン専門学校　教務・就職部長　桑野　知実

【次　　第】　１）開会あいさつ　（校　長　　栗林　直子）
２）２０２２年度教育実績報告　（教務部長　桑野　知実）
３）２０２２年度就職内定報告　（就職部長　桑野　知実）
４）２０２２年度自己点検・評価結果について　（校　長　　栗林　直子）
◆「教育理念・目標」　◆「学校運営」　◆教育活動
◆「学修・教育成果」　◆「学生支援」　◆「学生の受入募集」
◆「財務」　◆「法令順守」　◆「社会貢献・地域貢献」
６）学校評価者委員からのご意見及び指摘事項　（学校関係者評価者委員）

＜学校関係者評価委員会評価及び指摘事項＞

評価：	適切　4	ほぼ適切　3	やや不適切　2	不適切　1

◆「教育理念・目標」　【評価：　4】
≪学校関係者からの意見等≫
学校の職業教育の特色を生かしている。また、学生の就職実績や課外活動の実績からも分かるように、社会のニーズ、業界のニーズに合った人材教育ができていると評価する。

◆「学校運営」　【評価：　4】
≪学校関係者からの意見等≫
SNS や HP を上手く活用し教育活動に関する情報の公開が行われている。また、情報システム化により、業務が効率的に図られている。人事、給与に関する規定等も整備され、職員がいつでも規定について閲覧できる環境が整っている。

◆「教育活動」　【評価：　3.5】
≪学校関係者からの意見等≫
SDG s 活動報告会には、多くの協力企業関係者に見ていただき、いろんな角度からフィードバックをもらっていたので、実りある報告会であったと思う。ただ、保護者の参加が少なくて残念だった。報告会開催日程や動画配信など、別の工夫が必要。オンライン授業も３年目にして上手くいっているように見受けられる。オンラインでしかできない授業をもっと増やして、普段会えない著名人の話を伺えるなど、オンラインのメリットを最大限活用すべき。

◆「学修・教育成果」　【評価：　4】
≪学校関係者からの意見等≫
最近の学生を見ていると資格を取得するということよりも、いかに社会生活を豊かに送れるようにトレーニングを積んであげるかの方が重要で、専門学校の使命なのではないかと思う。若者の離職率が社会問題となっている中で、離職者を減らすためにはという視点から教育を行うべき。インターンシップの活用など入社後のイメージが沸きやすいように実習などにも力を入れてほしい。

◆「学生支援」　【評価：　4】
≪学校関係者からの意見等≫
若者にとって SNS がコミュニケーションツールの中心の一つであることを考慮し、LINE を活用した学生指導も新たな取り組みであり、効果的に活用できているようである。また、SNS を活用した保護者との連携も、昨年同様 LINE を活用し、効果的に行われている。発達障害の疑いのある学生に関しては、サポートする体制を外部ともっと連携してするべき。

◆「教育環境」　【評価：　4】
≪学校関係者からの意見等≫
コロナ禍で中断していた海外研修が今年度に復活できたのはすばらしい。以前のような全員参加よりも今年度のように希望者参加でもいいのではないか。英語を学んで何をするのかを明確にもっとすべき。海外研修を利用すれば語学を活かして何ができるのか、考える機会になるのではないか。

◆「学生の受入募集」　【評価：　4】
≪学校関係者からの意見等≫
評価についての意見・指摘なし。

◆「財務」　【評価：　4】
≪学校関係者からの意見等≫
評価についての意見・指摘なし。

◆「法令等の遵守」　【評価：　4】
≪学校関係者からの意見等≫
評価についての意見・指摘なし。

◆「社会貢献・地域貢献」　【評価：4】
≪学校関係者からの意見等≫
SDG s 活動を通してボランティアへの参加、環境や未来について考えるなど、自分以外の人のために行動できる時間になったのではないか。専門学校では人間力を養う場でもあるので、企業や地域の方と連携してそのような機会をもっと増やしていってほしい。

◆「国際交流」　【評価：4】
≪学校関係者からの意見等≫
オンラインなどを使って、海外に行けなくても交流できるような場を定期的に設けていたのは評価できる。また、日本語科の学生たちともゲームやレクレーションをしながら交流を行っているのは、お互いにとっていいこと。

上記、学校関係者評価委員からの指摘事項について、職員で指摘事項を共有し、更なる教育の質の向上のため、以下の通り改善を行った。

＜学校関係者評価結果・意見等の活用状況＞

◆「教育理念・目標」

≪意見等の活用≫

就職の実績状況からも、学校における職業教育の特色を生かしていると評価を頂いた。
引き続き、就職部と担任が一丸となり、学生たちの夢の実現のために力を注いていきたい。これまでと同様、企業から求められる人材育成のため、継続して企業との連携を図りながら学生への指導を行っていく。

◆「学校運営」

≪意見等の活用≫

これからますます求められる「情報システム等による業務の効率」のため、WIFI 環境の整備を定期的に行った。学生だけでなく、職員にとっても環境の整備を整えた。またコロナ禍でのオンライン授業や職員のテレワークなど、遠隔でも効率よく、授業や業務ができるようシステム作りを行っている。

◆「教育活動」

≪意見等の活用≫

常に時代と状況に合わせ社会に求められる人材育成を念頭にカリキュラムを設定している。専門知識の他にも語学力向上や問題解決力など企業が求める能力の向上に今後も着手していきたい。また、学生を育成するに当たり、教員の能力向上は不可欠だと思っている。社会からどんな人材が求められているのか、企業からヒアリングをしながら教員間で共有していきたい。

◆「学修・教育成果」

≪意見等の活用≫

委員より、実習やインターンシップの積極的な活用を促された。これに関し、夏休みに併せて春休みのインターンシップ実施や、県内外のホテルだけではなく、一般企業へのインターンシップにも参加できるよう他業種への開拓も行っていく。

◆「学生支援」

≪意見等の活用≫

保護者との適切な連携について、経済的な支援をこれまで以上に整備し、促進していく。また、保護者との連携に関し、もう少し連携を図った方が良いのではないかとのご意見に対し、これまでは電話での連絡が主流であったこともあり、フルタイムで働いている保護者とは中々職員の勤務時間内でコンタクトが取れなかったが、ここ最近では SNS 等を利用してる保護者も多いこともあり、LINE 等の SNS でのツールを活用することで、保護者とのコミュニケーションが密になるであることを期待し改善を図ることとした。また、さらに、郵便だけではなく、学校サイドからの連絡、案内等に関しても、HP への掲載を活用していることとした。

◆「社会貢献・地域貢献」

≪意見等の活用≫

ボランティア活動がしやすいように授業の一部として実施する仕組みづくりや、学生自ら問題提起をすることで自分事として考えてもらえるようなカリキュラム編成と授業作りを継続していく

以　上